

## 第24回高知女子大学看護学会報告

# 「看護のエキスパートネス」 —看護ケアの専門性の確立を目指して—

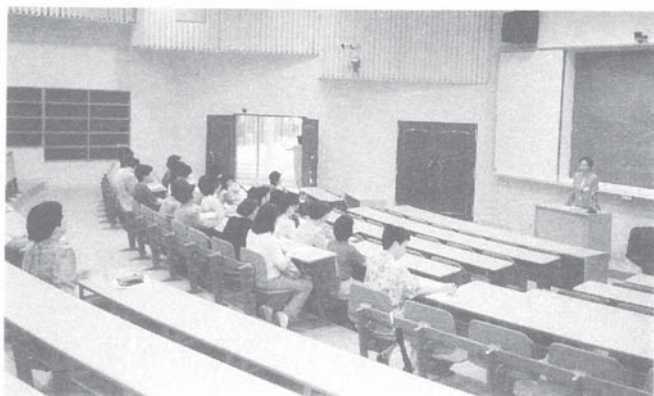
加納川 栄 子\*

第24回高知女子大学看護学会が、1998年7月25日(土)～26日(日)の2日間、山崎智子学会長(元高知女子大学教授)のもと、「看護のエキスパートネス」—看護ケアの専門性の確立を目指して—をメインテーマに、高知県ふくし交流プラザで開催された。

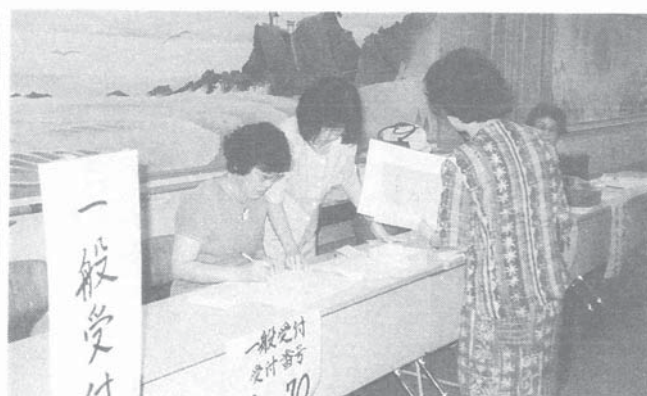
7月25日午前中には、4月より新しく家政学部看護学科から看護学部へ昇格し、高知市池の新キャンパスに移転した高知女子大学看護学部の見学会が開催され、多くの卒業生や地域の看護職の方々が、真新しいキャンパスを散策し、教育設備等の見学を行った。25日午後から26日にかけての学会には、全国の学会員や一般の看護職ら約300名の参加を得て、盛会の内に開催することができた。

2日間のプログラムは、7月25日午後から

の学会長の山崎智子氏の挨拶に始まり、続いて、2群6題の研究発表が行われた。また第1日目の学会終了後は、「高知女子大学卒業生の親睦会」が開催され、多くの卒業生が久しぶりに旧知を暖めあい、近況を報告し合うとともに、先輩後輩の交流を深めた。2日目の7月26日午前中には、東京医科歯科大学医学部保健衛生学科教授、島内節氏の「ケアマネジメント実践による看護の専門職としての発展」—ケアマネジメントの展開技能とシステムづくりの観点から—の講演会が開催され、間近に迫った平成12年度よりの介護保険導入前の時期を得たテーマだけに、多くの保健医療関係者の参加がみられた。さらに、午後からは、2群6題の研究発表会が行われ、活発な質疑応答が交わされた。



池キャンパス見学会



受付風景

## 会長挨拶 高等教育機関として生まれ変わった高知女子大学看護学部と高知女子大学看護学会の役割

山崎学会長より、高知女子大学看護学会は長い間高知女子大学看護学科と表裏一体となって歩んできたが、その看護学科が池キャン

パスに看護学部として新たに独立し、また大学院看護学研究科の設置がなされ、教育研究体制とともに施設・設備面も高等教育機関とし

\*第24回高知女子大学看護学会企画委員長



での整備がなされたことに対する積年の熱い思いが語られた。またそれに呼応して、高知女子大学も、①学会構成員の拡大、②大学院生に対する奨学金制度の発足、③高知女子大学看護学会誌の創刊、など新しい改革に取り組み、学会員の協力のもとに実行に移すことができた旨の感謝の言葉が述べられた。今後とも、高等教育機関として新たに生まれ変わった高知女子大学と共に、高知女子大学看護学会が活発にそして健全に発展してゆけるように、学会員の頭脳を駆使しながら運営に努力し、学会員の力を結集して新たな道を開拓してゆく旨の挨拶がなされた。

## 講演 「ケアマネジメント実践による看護の専門職としての発展」

### —ケアマネジメントの展開技能とシステムづくりの観点から—

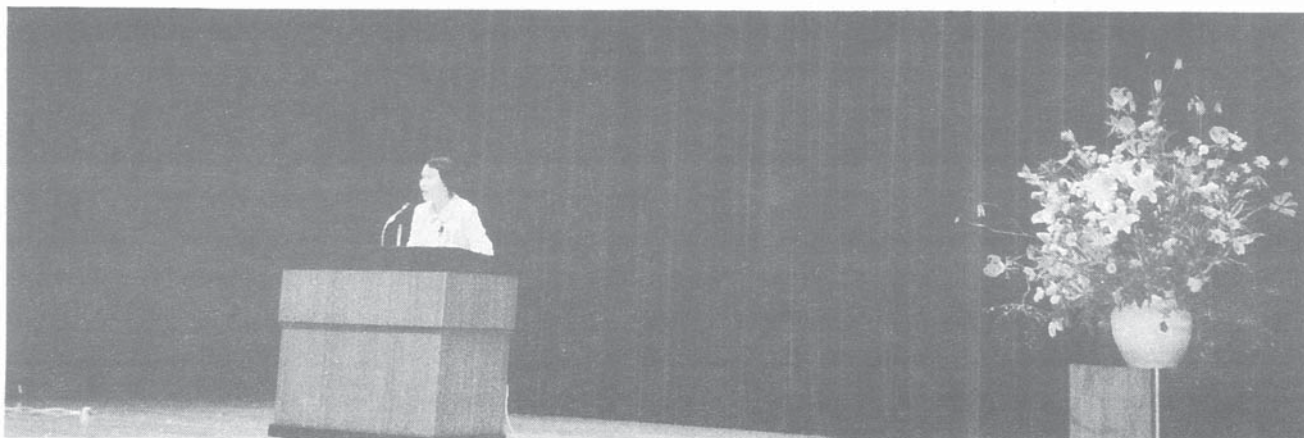
東京医科歯科大学医学部保健衛生学科教授 島内 節氏

学会2日目の7月26日午前中には、東京医科歯科大学教授の島内節氏の「ケアマネジメント実践による看護の専門職としての発展」—ケアマネジメントの展開技能とシステムづくりの観点から—と題した講演会が開催された。島内氏は長年に亘るケアマネジメントの実践的研究の中で取り組んできた内容を、事例を交えながら具体的に紹介し、ケアマネジメント実践における概念モデルを概説し、アセスメントから計画、実践、評価にいたるプロセスと、その中での看護職に求められる役割と課題について述べた。

島内氏はサービスの利用者を「患者」や「対象者」ではなく敢えて「利用者」と位置づけ、この利用者は、①健康状態と生活自立度、②生活行動モチベーション、③セルフケア、

④生活条件を有し、これらとライフステージとの相互作用により、ケアニーズが生じてくるとしている。このニーズに対して、次に患者や家族、そして地域の資源を含めたケアの方向性と対策が考えられ、介入方法を実践してゆく。ケアの内容としてはプロセスと内容・方法があり、これらがしっかり機能することが大切である。評価は利用者の変化、サービスの質の変化など、どこに視点を置くかで異なるが、これらを含めた全体の評価を行う。

島内氏によれば、ケアマネジメントの目的は、「人々の健康問題とそれに伴う生活問題の解決・改善・現状維持、安らかなターミナル期のケア、QOLの実現をめざして社会資源を必要なときに適切に速やかに、利用者へ提供できるようにチームケアにより効果・効



率的に連絡・調整・サービスの統合を図る。また、社会資源をつくり替え新たに開発し、ケアシステムの形成と発展を図る」ことであると定義し、利用者本人の権利とケアシステムの効果・効率性を考慮する必要があるとしている。サービスを十分に利用できるように、またケアの効率性の意味でも、利用者が計画の段階から参加することが大切であるとして、利用者参加型のケアプランとケアマネジャー制度を提唱している。その中で島内氏は、平成12年度から実施される介護保険制度において制度上は20数職種がケアマネジャーを取ることが可能であるが、利用者のアセスメントを的確に行い、その人にあったケアプランを立てることができる職種、すなわち看護職のケアマネジャーポストの獲得の重要性を強調した。この制度の中での利用者へのサービスの質を高め、看護職の役割を発揮する意味でも、看護職のケアマネジャーポストの獲得努力とスタッフ教育・ネットワークづくりの準備を行うことが急務であると述べた。

島内氏はさらに、介護保険制度と保険給付について概説し、我が国の今後の課題と問題点として、1) 病院内の早期退院システムづくり、2) 在宅ケアにおける退院患者の受け皿としてのシステムづくりを上げ、いくつか

の実践事例を通して、ケアマネジメント技能とその具体的役割を紹介した。

またケアマネジメント実践を通しての、今後の看護専門職の発展に向けてのポイントとして以下をあげた。

- ① ケアマネジャーは利用者にとって医師と同じくらいの強いインパクトを与える存在である
- ② ケアマネジメントは日常的に様々な人々と協働してゆく必要がある
- ③ ケアマネジメントの目的を理解し、その中での自分の位置づけを知る
- ④ ケアマネジメント実践のためのアセスメント能力を徹底的に育成する
- ⑤ 利用者を参加させる
- ⑥ アセスメント能力、計画能力などを駆使した質の高いケアを提供する
- ⑦ 社会資源を熟知する
- ⑧ ケアマネジャーとしてのリーダーシップ、管理機能を発揮する

看護職が専門職として、ケアマネジャーとして働くことで、他職種との関係も拡大し、住民への看護職の専門性の明示にもなり、看護の専門性の発展につながると述べ講演を締めくくられた。

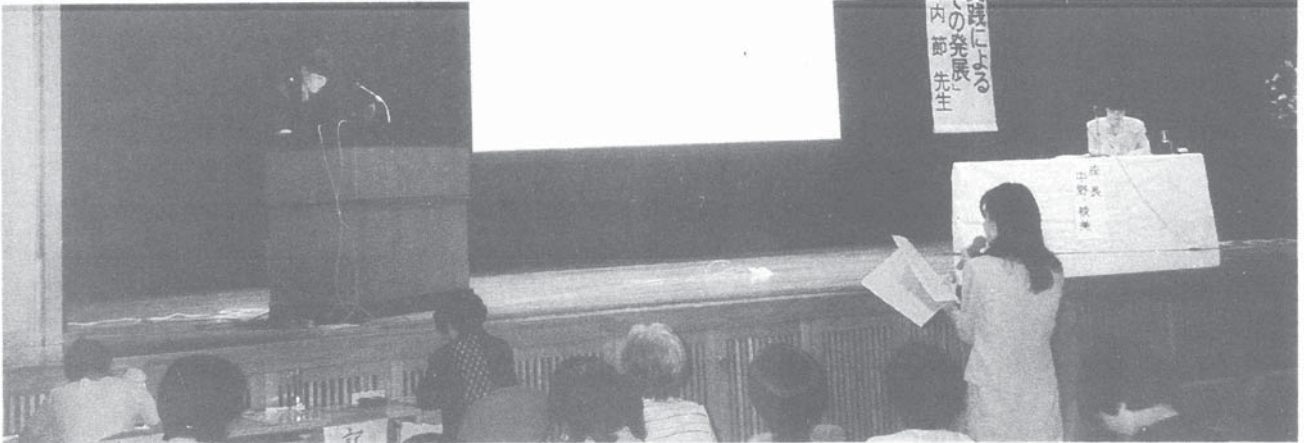


## 看護研究発表

第24回高知女子大学看護学会研究発表会では、メインテーマ「看護のエキスパートネス」に関するものが、2日間を通じて計4群12題

が発表された。

第1群「看護実践能力の開発に関する研究」では、①精神疾患患者の服薬が自己管理でき



ない要因の分析、②口腔ケアに関する研究、③不確かさをもつ終末期がん患者に対する看護援助の検討、の3題が発表され、日頃の看護実践の中での専門的援助方法の探求の成果が示された。

第2群「看護のケアリング行動に関する研究」では、①精神科看護者のケアリングにみられるエキスパートネス、②切迫流産妊婦に対するケアリング行動、③患者の意志決定を支える看護の基盤、の3題が発表され、それぞれの場面における看護者の独自のケアリング行動についての分析と特徴が明らかにされた。

第3群「ヘルスプロモーションを促す看護に関する研究」では、①妊婦の妊娠に対する取り組みの姿勢、②老親の介護に関する看護職とその他の働く女性の意識のちがひ、③働き盛り世代の自覚的健康状態と健康意向に関する調査報告、の3題の発表があり、看護の専門的機能の1つであるヘルスプロモーショ

ンについてのアセスメントと働きかけの方策についての発表がなされた。

第4群「看護のキャリアディベロップメントに関する研究」では、①当院における看護婦のBurnoutの実態－職場環境要因、自覚との関連－、②EQテストを用いて測定した本院病棟看護婦の情動傾向と経験年数との関連－、③看護職者の仕事継続の不安と個人背景の関係、の3題の発表があり、看護職のキャリアディベロップメントを阻む要因に関する調査研究とそれらへの対応策に関する発表がなされた。

今回より多くの地域の看護職の皆様にも積極的に研究発表会に参加して頂き、より実践に密着した研究発表が大多数を占め、演者と会場との活発で有意義な質疑応答がおこなわれた。今後とも本学会が地域の看護職の相互交流と研鑽の場となることにより、看護実践そして教育・研究の質の向上に役立つことを願っている。



## 第24回高知女子大学看護学会総会の報告

平成10年度より、高知女子大学看護学会は来るべき将来に備え、学会としての使命をより充実させ、看護の学術の発展・振興を目指

して、下記に示す事業計画を実施し、それらの経過報告がなされたので以下に報告する。



### 1) 高知女子大学看護学会誌創刊号の発行

高知女子大学看護学会誌を平成10年6月に創刊した。高知女子大学学長ならびに多くの卒業生から創刊に対する抱負が寄せられ、また厳密な査読過程を経て原著論文・研究論文併せて6件の研究論文が採択され掲載された旨の報告がなされた。

### 2) 第24回高知女子大学看護学会の開催

平成10年7月25日、26日に「看護のエキスパートネー看護ケアの専門性の確立を目指して」をメインテーマに講演会ならびに研究発表会を行った。講演会の講師として東京医科歯科大学教授島内節先生にお願いし、「ケアマネジメント実践における看護の専門職としての発展—ケアマネジメントの展開技能とシステムづくりの観点から—」の講演を実施した。また研究発表会には学会員ならびに地域の看護職より演題応募があり、公平なる査読審査を経て、研究助成金による研究1題を含む計12題の研究発表がなされた旨の報告があった。

### 3) 平成9年度高知女子大学看護学部公開講座の開催

高知女子大学主催、高知女子大学看護学会協賛による公開講座が「看護のエキスパートネー看護実践の専門性を生かすための方略」をテーマに、平成10年5月半ばから6月中旬

にかけて計4回シリーズで開催された。応募者103名の中より厳選なる抽選にて60名の参加者を選出し、毎回、積極的な参加が得られ、閉講式では57名に修了証書が授与された旨の報告があった。

### 4) 平成10年度高知女子大学看護学会奨学金制度発足の報告と奨学生の承認

「高知女子大学看護学会奨学金制度に関する規則」等の必要書類の整備を行い、高知女子大学看護学会奨学金制度を平成10年4月1日より発足させ奨学生の募集と選考を行った。また「高知女子大学看護学会奨学生選考委員会」にて奨学生の選考を行った結果、高知女子大学看護学研究科1年在籍中の齋藤美和さんと、山口和子さんの2名が推薦され、本総会にて奨学生として承認された。奨学金貸与資金として「高知女子大学看護学会奨学基金貸与事業」を同時に開設し、専用の口座を設けて年間を通じて寄附を募り、寄附状況は高知女子大学看護学会誌に毎年報告することになった旨の報告があった。

### 5) 高知女子大学看護学会研究助成制度の報告

高知女子大学看護学会研究助成制度に基づき1件に対して研究助成を行った。その成果を第24回高知女子大学看護学会にて発表した旨の報告があった(第2群第1題:精神科看

護婦のケアリングにみられるエキスパートネス)。

6) 平成10年度の高知女子大学看護学会事業計画についての総会での承認事項

① 第25回高知女子大学看護学会

1日の講師を招いての講演会を開催予定とし、具体的内容と運営方法については、次年度運営委員会にて決定し、会員に周知する。

② 平成10年度公開講座

平成10年度は2回の公開講座を実施することが承認された。第1回目は、高知女子大学の改学記念事業として、高知女子大学看護学部主催、高知女子大学看護学会共催の公開講座を平成10年11月に、

オレゴン・ヘルスサイエンス大学看護学部教授パアリシア・アーチボルト博士とバーバラ・スチュアート博士を迎え開催する。また2回目は、学会のメインテーマにそって、地域の看護職を対象にした公開講座を平成11年5月～6月にかけて開催する。

③ 高知女子大学看護学会誌Vol.24, No. 2を平成11年春に発行する。

④ 高知女子大学看護学会研究助成事業を行い、平成11年1月1日より、3件(1件/5万円以内)の研究助成の募集を行う。

⑤ 高知女子大学看護学会奨学金制度の運用により、平成11年4月1日より5月14日にかけて奨学生募集を行う。

以上

